

2012.3.17



生誕150年 20世紀音楽のドビュッシー 第2回 窓を開けた巨人



プログラム

今年生誕150年に当たる、フランスの生んだ大作曲家ドビュッシーを特集するシリーズの第2回です。「小組曲」はピアノ連弾の作品として作曲されましたが、友人のビュッセルによるオーケストレーションによってドビュッシーの意図する色彩感がより鮮明に浮き上がった感があります。第1巻、第2巻合わせて24曲の小品からなる前奏曲集は48歳の頃の作品で、当然、バッハの平均率クラヴィーア曲集やショパンの前奏曲集を意識して書いたことは容易に想像できますが、ドビュッシーの作品はもっと自由で即興性に富んだ曲集になっています。ヴァイオリン・ソナタはドビュッシー最後の作品で、エキゾチックな色彩と美しい音色に溢れた名曲です。「神聖な舞曲と世俗的な舞曲」は、半音階ハーブのために書かれた作品で、神秘的で幻想的な世界が広がる、これぞドビュッシーの面目躍如たる佳曲。伝統的な形式を嫌ったドビュッシーは交響曲も協奏曲も残しませんでした。急緩急の3楽章構成で書かれたピアノと管弦楽のための幻想曲は実質的には協奏曲とも言える、瑞々しく美しいロマン色が残っている28歳の頃の作品です。「夜想曲」はこの言葉から連想される絵画的な印象や色彩的な感覚を音にした作品でドビュッシーの代表的名曲のひとつです。

第2回の今日は、初期から晩年まで、多彩なドビュッシーの音の世界をお楽しみください。

クロード・ドビュッシー (1862~1918):

小組曲 (アンリ・ビュッセル編曲)

1. 小舟にて 2. 行列 3. メヌエット 4. バレエ

マルチエツロ・ヴィオッティ指揮ケルン放送交響楽団

(1992.5.15 カイザー・フリードリッヒ・ホールでのLive)

前奏曲集第1巻より

6. 雪の上の足跡 8. 亜麻色の髪のエ女 9. 途絶えたセレナード

10. 沈める寺 11. パックの踊り

ミッシェル・ペロフ (ピアノ)

(1996.3.16 紀尾井ホールでのLive)

ヴァイオリン・ソナタ

オーギュスタン・デュメイ (ヴァイオリン) / マリア・ジヨアン・ピリス (ピアノ)

(1994.6.30 王子ホールでのLive)

*** 休憩 ***

神聖な舞曲と世俗的な舞曲 (半音階ハーブと弦楽合奏のための)

吉野直子 (ハーブ) / フィルハーモニック・ヴィルトウオーゾ・ベルリン

(1993.6.25 サントリーホールでのLive)

前奏曲集第2巻より

5. ヒースの茂る荒れ地 7. 月の光がふりそそぐテラス

アルド・チッコリーニ (ピアノ) (2003.10.12 すみだトリフォニーホールでのLive)

12. 花火

マウリツィオ・ポリーニ (ピアノ) (2002.11.22 サントリーホールでのLive)

ピアノと管弦楽のための幻想曲

アンヌ・ケフェレック (ピアノ)

マニユエル・ロサンタール指揮フランス国立管弦楽団

(1990.9.27 シャンゼリゼ劇場でのLive)

夜想曲 (1. 雲 2. 祭り 3. シレーヌ) 抜粋

セルジユ・チェリビダツク指揮シュトゥットガルト放送交響楽団 / シュトゥットガルト放送合唱団

(1978.10.17 シュトゥットガルト、ベートーヴェンサールでのLive)